

柏崎抄

▲昨午の
と。思知の
書から集
かなつた
霧の相手は
球のアルボ
ターター
ローロー

▲昨午の柏崎の小学校で、今年度の夏季大会の男子バレーボール大会が行われ、各校の選手が活躍を見せた。大会は午前10時から始まり、各校の選手が試合に臨み、激しい戦いが展開された。会場には多くの観客が詰め寄り、選手たちの活躍を応援していた。大会は午後5時頃に閉幕し、各校の選手はそれぞれの学校に帰校した。大会を通じて、各校の選手はチームワークを高め、競技力の向上を図ることができた。大会の運営には、各校の先生方が協力し、大会を成功裏に開催することができた。

迫力プレーに観客沸く



水球男子 日本代表 紅白戦を公開

今夏のパリ五輪開幕まで50日を切った中、水球男子の日本代表が8日、柏崎アクトアリーナで紅白戦を市民らに公開した。ブルボンウォータースポーツ協会の代表に選出されている選手が好プレーで訪れた約600人の観客を沸かせた。選手は史上初となるベスト8進出に向け、「結果だけでなく、なにより楽しんだ。」と意気込みを語った。ブルボンからは楠村克行（現）、新田一真（現）、稲場悠介（現）の3選手が代



表入り。代表チームは五輪に向け、3月9日に市内で合宿を実施。五輪への機運醸成に努めようと、市が紅白戦の公開を企画した。紅白戦は代表チームのほかに、ブルボン区の社会人選手もメンバーに加わり、8分間×2セットの試合を行った。GKの稲村選手は試合距離のシミュレーションを見せ、稲場選手と新田選手はともに得点を挙げた。3大会連続の出場となる稲場選手は「水球のまち」から今まで応援してもらった分、恩返しするためにも結果を残したい」と抱負を語った。新田選手は「1対1の強さは格段に上がっている」と語った。

水球男子日本代表による紅白戦でシミュレーションを行った稲場選手（左）、右は新田選手。8日、柏崎アクトアリーナ

る個人の目標は選手として昇進だ。初の五輪出場となる新田選手は自分のキャリアの中で最高の舞台になるとは間違いない。勇気を与えられたらプレーをしたいと決意を語った。1次リーグ初戦では前回東京五輪で金メダルを獲得したブルボンと戦った。稲場義法監督は「相手に一泡吹かせ、突きつなげたい」と闘志を燃やした。試合後、コーナースタッフの菅野翔太さん（現）は「両選手もかつて選手たちも気持ちよくゲームできた。メダル獲得を目指して準備していく」と語った。

初日の人出10万9千人

えんま市 市内外からどっと



人出がピークになり、にぎわえんま市。露店がぎっしり並ぶ通りには人の波が続いた。14日午後7時半ごろ、市内東本町1

えんま市は平日の15日、晴天に恵まれ、午前中から家族連れ、友人グループが東西本町通りに繰り出した。初日の15日の人出は10万9079人（市露店管理委員会発表、事務局・市商観光課）。新潟三大高市（たかまの二つ）で、人気の高さを表した。「市」は16日まで。（関連記事）

露店管理委員会によると、出店数は食べ物346、お面、射的、くじ引きなどの一般が72、金魚が2、植木が、瀬戸物が2の合わせて444店。昨年よりも16店多い。通りには、一昨年から実施してい

るカラーコーンを置き、片側一方通行にした。14日の人出は、過去最多だった昨年の初日（10万5千人）よりも約4千人多かった。ピークは午後6時半から7時半ごろ。食べ物関係の露店から甘いにおいが漂い、行列ができた。

東本町1の通りでは、小倉町の大学3年・高橋聖太さんがティラノサウルス、豊町の開業博英さん（43）がサメの着ぐるみで、えんま市の盛りあげに「父親の出店を手伝いに東京から帰省した。ふんきとほい」と高橋さん、子どもたちから喜んでもらえて良かった」と開業さん。通りがかりの二中1年・杉田謙門君、関谷瑛翔君、土田真斗君、栗林折央さんは「かわいくて、かっこいい」と好評だった。

フォジエストリート横付近では、地元出店の一人、4年・岸田尚也さんは「柏崎のまちをフィールドに実践研究をするゼミの活動を知らせてもらいたい」と言い、初めて出品した書道部の岡・本間子穂さんは「子どもたちとコミュニケーションがとれ、えんま市はいい」と漢字を張り切った。

「子どもたちとコミュニケーションがとれ、えんま市はいい」と漢字を張り切った。初めて着た服、とてもうれしい。イスラム教で食べ物に制限があるが、えんま市にはおいしい食べ物がたくさんあっていいと感じた。

「子どもたちとコミュニケーションがとれ、えんま市はいい」と漢字を張り切った。初めて着た服、とてもうれしい。イスラム教で食べ物に制限があるが、えんま市にはおいしい食べ物がたくさんあっていいと感じた。

「子どもたちとコミュニケーションがとれ、えんま市はいい」と漢字を張り切った。初めて着た服、とてもうれしい。イスラム教で食べ物に制限があるが、えんま市にはおいしい食べ物がたくさんあっていいと感じた。

「子どもたちとコミュニケーションがとれ、えんま市はいい」と漢字を張り切った。初めて着た服、とてもうれしい。イスラム教で食べ物に制限があるが、えんま市にはおいしい食べ物がたくさんあっていいと感じた。

若さと元気で 活動をPR

学生消防隊

新潟工科大、新潟病院附属看護学校、新潟産大でつくる市消防団学生消防隊（隊長Ⅱ工科大3年・益田大希）が15日、えんま市を訪れた人たちに、消防団活動や火の用心を元気にPRした。

市消防団は毎年、えんま市での警戒と並行し、広報活動を実施。積載車展示・乗車体験ほか、女性消防隊（長谷川弘美隊長）による住宅用火災警報器などのPRを重ね、2022年から学生消防隊も協力する。

学生12人はこの日、景品を手にし「団員募集しています」「消防車見ていってね」「なぞと精力的に声掛けをし

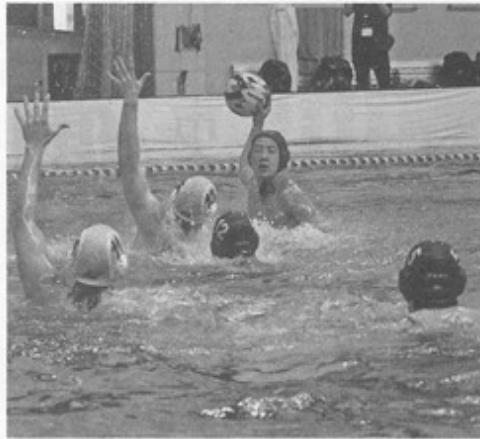
た。工科大3年の関矢蓮さんは「応急救護など、各種講習を受ける機会に恵まれているのも消防団の魅力。まだ指導できるほどではないが、いつか学びが役に立

てほしい」と話した。

また昨年度末に卒業した学生隊員のうち、本年度は計9人が一般団員、女性隊員として活動を継続する。女性隊員となった看護師の藤田ひかりさん（22）は「学

生の際は感染症禍で活動がほぼできなかった。その分も含め、これから地域の役に立てたい」と気持ちを新たにした。

一般、学生隊、女性隊とも団員・隊員を募集中。問い合わせは市消防本部消防総務課消防係（電話24・1345）へ。



アジア圏の水球の競技レベル底上げに向け、国内や

アジアの競技力底上げへ 水球 第1回大会を開催

「ウオーターポロリーグ」が柏崎アクアパークで開かれた。第1回大会となった今回は男子5チームが参加。迫力あるプレーを繰り広げ、ブルボンウオーターポロクラブ柏崎（ブルボンK乙）が優勝した。

大会は15・16日に実施。ブルボンK乙や新潟産大など国内チームのほか、シンガポール代表やオーストラリアのチームが参加し、2日間にわたって総当たりのリーグ戦を行った。ブルボンK乙は体格が一回り大きい選手が多くいるオーストラリアのチームを破るなど全勝した。

ブルボンK乙の平田一成（28）は「公式戦数の少なさが課題になる中、力の強い外国人選手と試合ができるのはチームにとってもプラス」と語った。10月に柏崎アクアパークで開催される日本選手権に向けて「試合経験を積みいい機会になった」と手応えを見せた。

アジアリーグは今後、年1回以上開催し、参加チームの拡大も目指していく。青柳さんは「海外が会場になった時に遠征に慣れていない日本チームが参加できるか懸念はあるが、継続的に開催できればいい。このリーグを足がかりにアジアの競技力向上につなげた」と話した。

「アジアリーグ」は「公式戦数の少なさが課題になる中、力の強い外国人選手と試合ができるのはチームにとってもプラス」と語った。10月に柏崎アクアパークで開催される日本選手権に向けて「試合経験を積みいい機会になった」と手応えを見せた。

大会は15・16日に実施。ブルボンK乙や新潟産大など国内チームのほか、シンガポール代表やオーストラリアのチームが参加し、2日間にわたって総当たりのリーグ戦を行った。ブルボンK乙は体格が一回り大きい選手が多くいるオーストラリアのチームを破るなど全勝した。

ブルボンK乙の平田一成（28）は「公式戦数の少なさが課題になる中、力の強い外国人選手と試合ができるのはチームにとってもプラス」と語った。10月に柏崎アクアパークで開催される日本選手権に向けて「試合経験を積みいい機会になった」と手応えを見せた。

「新治をスベスベ」 地域に学ぶ 地域を学ぶ

——史政活動レポート——

海のまち柏崎の 一歩目として

市内の中央海岸で先日、柏崎マリンスポーツ協会主催による「海岸清掃」市民ボランティア活動に参加した。例年行われている海岸清掃は、今年で27年目になる。

当日は天候に恵まれて爽やかな海風を感じながらの清掃活動だった。多くの市民の方々が参加され、海のまち柏崎を市民の手で守っていくという強い思いが感じられた。大学の学生も、水球部や

ラグビー部・陸上競技部などの運動部、同好会・サークル単位で参加してくれた。留学生も楽しそうに作業していた。

主催された方のご説明のとおり、毎年、流木・アシ・プラスチック製品などの残骸が流れ着き、強い風によって砂浜全体に広がるという繰り返しで、年々広がっていく砂浜に作業範囲は大変広域だった。波打ち際のプラスチック製品の残骸や吸い殻などを回収し、あちらこちらに堆積している流木・ヨシ・アシ類を袋

いっぱいにして、回収に奔走されていた協議会の方々の軽トラに積み込んだ。終了時には、シーユース雷吉島の集約スペースに山積みとなった。参

加された方々の汗と笑顔から達成感が伝わってきた。今後開催される大花火大会など市内外から多くの方が来場するイベントが盛会となり、海のま



ち柏崎をアピールできる一助となれたらうれしい限りである。

今回参加してくれた中国からの留学生・マンタさんは「こんなに多くの人が、ボランティアで作業する風景に感動した。砂浜もきれいになったし、汗をかいたけれど楽しいひと時でした」と感想を聞かせてくれた。参加してくれた多くの学生たちからも充実感が伝わってきた。

柏崎の地にこれからも多くの人々から訪れていただき、魅力あるまちとして印象に残るよう、学生たちが先頭に立ってこのまちの地域振興に寄与することができればという思いを一層強く感じたいイベントだった。

（同大学地域連携センター）

新潟産大の1年生は12日、必修科目「基礎ゼミナール」のまちあるきを中心市街地で行い、地域理解を深めた。留学生を除

産大まちあるき 地域理解深める

1年生必修ゼミ
中心市街地で

く79人が教職員や上級生のSA（チューター・アシスタント）など、二コニコ通りや本町通りのほか、陸上競技場、アクアパークなどの施設を巡った。

同大は地域実践教育に力を入れており、1年次から柏崎市を題材としたフィールドワークに取り組み、中心市街地のまちあるきは2年目。街並みを観察したり、気づいたことを話したりしながら実際に歩いて地域を理解し、地域について主体的に考えることを目指した。

この日は総勢約1000人がアルフォーレから6班に分かれて出発し、同大が発行する地域通貨「風輪通貨」の協賛店も巡った。全30店のうち、21店が今回のエリア内にある。

妙高市出身の大内天斗

さんは「水球や最古の陸上競技場など柏崎には誇れる場所が多いと感じた。まちあるきの最中に見つけ

た雰囲気のよさそうな飲食店に今度行ってみたい」。新潟市出身の宮越妃由さんは「市民に密着し



必修科目「基礎ゼミ」のまちあるきで理解を深める新潟産大1年生12日、市内駅前1

ている防災にとっても感動した。原発がある柏崎に引越してきて、災害について非常に不安が多かったけれど、フィールドワークで安心できるまちであることが分かり、柏崎がより好きになったと話した。

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト

〈200〉

新潟産業大学では若手教職員を中心に、全国的に厳しい地方小規模大学の現状を乗り越えようと、深刺（はつらつ）とした動きが目立ってきています。新入生が、大学に馴染（なじ）めるよう基礎ゼミを改革し、笑い声も響く授業が展開されています。この動きを加速すべく、来春からは学科6コースの教育システムへと移行します。柏崎市など地域社会が掲げる政策課題に対し、各コースはその専門性を活かした研究と学びで、解

決に向け応じようと考えています。まず文化経済学科の3コース。「スポーツ・健康経営」では、高齢者の健康づくり、従業員の健康管理を指導する人材を育成します。医療費削減、疾病による職場離脱の防止など、自治体の財政改善や労働者不足への対応を目指します。スポーツ指導者の養成で、地域のスポーツ文化を花開かせたい。「持続可能な地域づくり」では高校、行政や民間団体との連携を強め、若者の県内残留率を

高め、地元企業への定着を図って、SDGsに沿った地域活性化に磨きをかけます。「まちづくり」「旅行業務専門職養成」の他に、本学の学生食堂を経営する「ニッカイ米山」と連携し、子ども食堂など福祉分野への取り組みも始める予定です。

「文化産業・国際理解」では、「マンガ・アニメ」といった日本文化の発信、「博物館学芸員養成」に加え、アジア諸国から留学生を迎える本学の特色を活かして、国際理解を深め、より現実化

するグローバル化社会への地域の対応力向上の一翼を担いたい。次に、経済経営学科の3コース。「企業会計・金融制度」では、金融・証券・保険、NISAの知識、さらには宅建国家資格など、卒業後の進路

力も得つつ意欲ある企業人育成を進めます。若手教員のもとAI活用、チャットGPT、情報倫理など進化する情報化社会への対応が一新されます。本学の老舗である「経済分析・未来予測」では、経済理論を極めな

たボランティア科目も配置し、地域との接点を保つことで、社会性を涵養（かんよう）することを重視しています。最後に「教養教育」の改革。「社会人力養成クラス」ではコミュニケーション力に対する自信の獲得、これと対照的な「アドバンストクラス」も設け、学生それぞれの能力を効果的に引き出す準備を教養課程から始めます。「新潟産業大学で何を学ぶか」の授業では、多彩な科目群から自らの学修プランを立案し、挑戦する積極姿勢を養います。「語学交流ボランティア」では、日本人学生と留学生の組

み合わせならではの力を發揮し、例えば観光者向け案内板の多言語化など、留学生にも地域貢献を感じられる活動を取り入れた。

このように、従来の長所を余すところなく取り入れ、新たな分野にも果敢に取り組み、産学官民連携の地域社会の「地（知）の拠点」としての役割を担うべく、新潟産業大学は今、生まれ変わるうとしています。皆様方のご理解と変わらぬご支援をお願い致します。

（副学長）

毎月1回掲載

びっくりに新産大！

住吉 廣行

組みも始める予定です。「文化産業・国際理解」では、「マンガ・アニメ」といった日本文化の発信、「博物館学芸員養成」に加え、アジア諸国から留学生を迎える本学の特色を活かして、国際理解を深め、より現実化

や日常生活への対応を意識しています。昨年は日商簿記1級を獲得した学生も出ており、会計事務所などへの進出も目指します。「企業経営・情報戦略」でも、アントレプレナーシップ養成など起業も含め、地元企業の協

がら、公務員や大学院進学等、学ぶ意欲をさらに高め、自らの将来と未来社会を経済学の視点から予測できる、教養ある人材を育てます。「地域に学ぶ地域をおこす」をモットーに、各コースに専門性を活かした

たボランティア科目も配置し、地域との接点を保つことで、社会性を涵養（かんよう）することを重視しています。最後に「教養教育」の改革。「社会人力養成クラス」では、コミュニケーション力に対する自信の獲得、これと対照的な「アドバンストクラス」も設け、学生それぞれの能力を効果的に引き出す準備を教養課程から始めます。「新潟産業大学で何を学ぶか」の授業では、多彩な科目群から自らの学修プランを立案し、挑戦する積極姿勢を養います。「語学交流ボランティア」では、日本人学生と留学生の組

み合わせならではの力を發揮し、例えば観光者向け案内板の多言語化など、留学生にも地域貢献を感じられる活動を取り入れた。

このように、従来の長所を余すところなく取り入れ、新たな分野にも果敢に取り組み、産学官民連携の地域社会の「地（知）の拠点」としての役割を担うべく、新潟産業大学は今、生まれ変わるうとしています。皆様方のご理解と変わらぬご支援をお願い致します。

（副学長）

地域課題解決へ ハッカソン開催

最終日に公開発表
7月5～7日

地域が抱える社会課題の解決に向けたアプリやシステムの開発などを旨とするイベント「ハッカソン in 柏崎」が7月5～7日、新潟工大などで行われる。最終日の7日は市役所で各グループによる成果発表もあり、一般観覧も可能。

主催は日本青年会議所で、柏崎青年会議所の共催。新潟産大と新潟工大の学生約20人が参加し、地域課題の解決に向け、フィールドワークを通じてアプリ開発などに取り組む。

7日は午前11時から市役所多目的室で、10時から一般観覧を受け付ける。会場スペースの関係で、入場規制する場合もある。問い合わせは柏崎青年会議所事務局（電話21・4412）。